

# SDV時代のICE – BEVアーキテクチャへの xEV/ICEの統合アプローチ

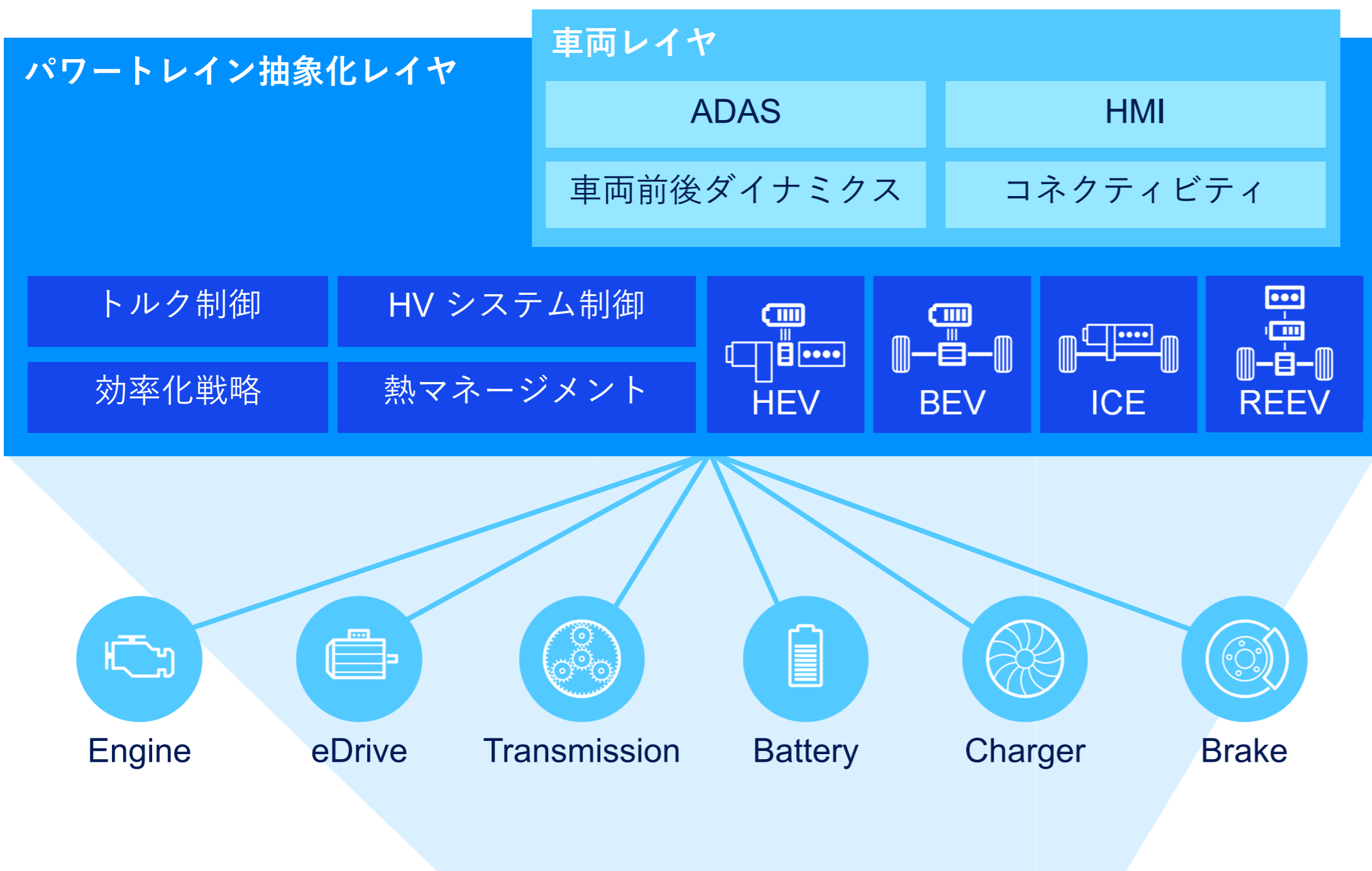
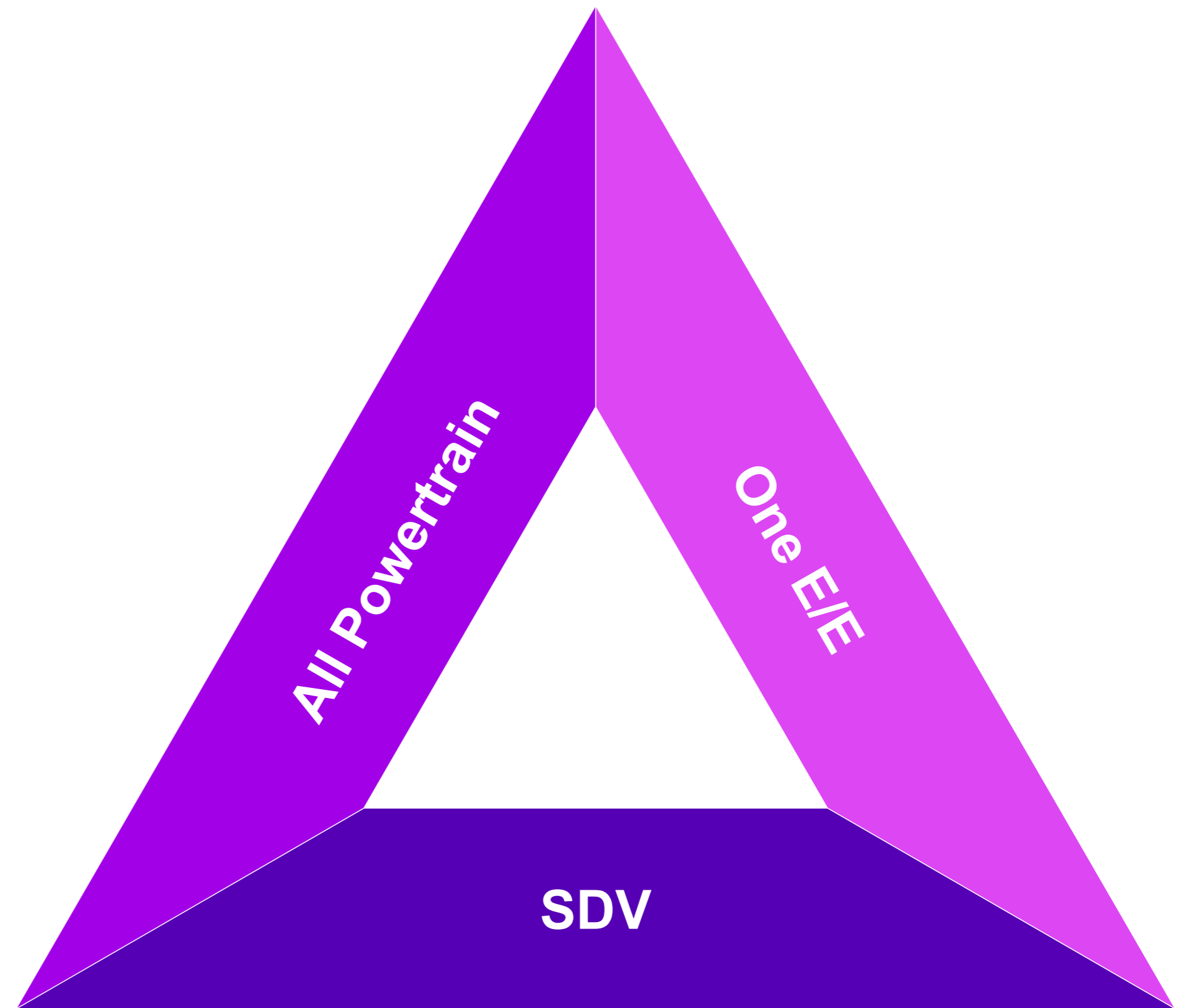
## パワートレインソフトウェア開発における課題

- パワートレインの多様化（ICE / REEV など）の進展
- 国 / 地域ごとに異なる法規制の拡大
- 単一のソフトウェア変更であっても、複数の環境に対して何度も実装が必要  
→ 高コスト / 非効率 / 人為的エラーのリスクが高い

## IAVのソリューション

全てのパワートレインに対応する単一のソフトウェア開発

- OEMの投資を最小化するため、既存（レガシー）ハードウェアを最大限活用
- システム全体を継続的に進化
- SDVハードウェアアーキテクチャおよび共通機能（例：OTAアップデート）を対象
- パワートレインの抽象化レイヤにより実現

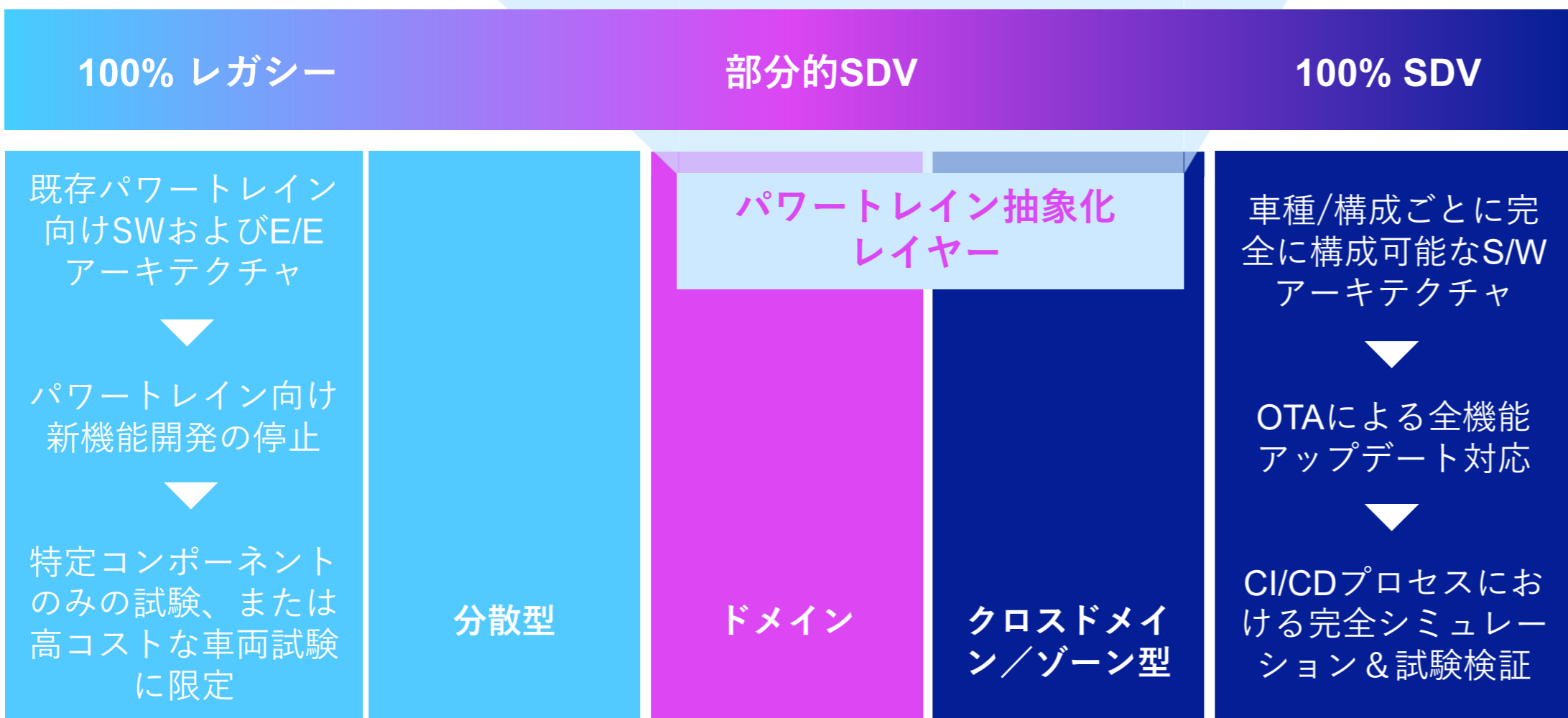


## パワートレイン抽象化レイヤ

- 車両レイヤーと各種パワートレインコンポーネントを接続
- トルク制御や熱マネージメントなど、パワートレイン固有の機能を包含
- 車両のパワートレイン構成に応じて、機能の有効/無効を切り替え可能
- 機能の再利用や交換が可能

## SDVアプローチの活用

- OTAによる市場投入後の継続的ソフトウェア最適化
- 高性能な集中型制御ユニットにより、機能の更新/プロセス/機能の再配置が容易
- 全コアの負荷バランス最適化により、バス通信およびデバイス内部通信の負荷を低減
- 高度に自動化されたソフトウェア開発/検証/展開により、短い開発サイクルでの迅速なリリースを実現



既存コード再利用により  
最大80%のコスト削減

ソフトウェア構造がSoP遅延  
の要因になることはない



お問い合わせ: [contact@iav.jp](mailto:contact@iav.jp)

